

シルバーラビット

銀鬼神装アイリス

VS クソガキ怪人

NTR 洗脳編

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



PRESENTED BY

トランジスタベイベィ

時は
近未来ッ!!

仮初の平和の影で
凌ぎを削り合う
2つの勢力が
あったッ!!

世界を牛耳るべく
暗躍する
悪逆非道なる怪人勢力
『ウィースト軍』ッ!!

それを向かい撃つべく
集結した正義のヒーロー達が
組織した『対異能防衛隊』ッ!!

そしてヒーロー・ヒロインの中でも
ひととき輝く綺羅星のごとき
存在があった!! その名も
『シルバーラビッツ隊』ッ!!

日夜増強される
『ウィースト軍』の脅威に
対抗すべく集められた
スーパーヒロイン達に
よって構成された
エリート特殊部隊であるッ!!

白銀の強化スーツに
身を包んだ
気高き彼女たちを
あらゆる悪が恐れたッ!!

だが
しかし……ッ!!

シルバーラビッツ隊
隊員:Sラビットタリア

シルバーラビッツ隊
隊長:Sラビットアイリス

シルバーラビッツ隊
隊員:Sラビットデジー

銀兎神装アイリス・VSクソガキ怪人NTR洗脳編

「ラビットレイピア・ハリケーン……ンッ！」

「グアアアアアアアアッ！」

夜の自然公園。都会の中で一部すつぽりと暗い、僅かな街灯しか明かりのない、普段であれば静かな場所にて。無数に舞う銀閃の嵐に切り刻まれ、俺達の標的であった『怪人』は、シルバーラビット隊隊長のSラビットアイリスの前に敗れ去った。

「ダリア、魔神片の確保を！」

「ハッ！ 反応が高いのは……こッ！」

「グハアッ！」

膝を着いた怪人に対し、副隊長のSラビットダリアが専用キャプチャーアームで怪人の肩部を打ち抜く。そして怪人を吹っ飛ばしたそのサイバネチックなアームには、赤紫に輝く禍々しい小さな結晶片が掴まれていた。

「魔神片、確保完了しました、アイリス隊長！」

「ご苦勞様、ダリア。しかし、魔神片を取り除いても怪人化が解けないという事は、コイツは元々からヴィースト軍の怪人だったという事か」

「下っ端の怪人が魔神片を手にして暴走、つてところですかね。一般人が怪人化被害にあわなくて良かったですが……その分手ごわかったですね」

「全くだ。あの四天王怪人も厄介な事をしてくれたものね。ああ、キミ。周囲のヴィーストエナジー反応はどうなっているかしら？」

「はっ、隊長！ ええとですね……」

不意にアイリス隊長に呼ばれて、俺は慌てて説明に入る。正直、カッコ良くて美しすぎる隊長の姿に見惚れてしまっていた。

俺はシルバーラビット隊のサポート隊員だ。出来れば隊長と肩を並べる戦闘隊員になりたいかったが、専用スーツ適性や根本的な魔力量から男である俺では厳しかった。

悔しいが……と、今はそれどころじゃないな。ちゃんと役目を果たさないと。

「戦闘の直後ですし、暴走でエナジー振りまっていたみたいですからね。あちこちに反応があるので、まだ他に怪人が居たり、魔神片があっても判別は出来ないかと」

「ふむ……やはりそうか。ならひとまずダリアは魔神片の封印措置と警護を。

私と他の隊員は、デイジーに任せていた周囲警戒探索に合流するぞ」

「はっ！ 了解です隊長！」

隊長の命令が示す通り、俺達の今の任務は『魔神結晶片』……通称『魔神片』の探索、回収だ。

十日前にあつた我らラビット隊含め中央から派遣のエリート部隊合同による四天王怪人討伐作戦にて、無事標的の怪人をうち果たしたモノの……

その四天王怪人は自身を四天王足らしめている高濃度ヴィーストエナジー結晶『魔神結晶片』を封印されるのを拒み、確保寸前に結晶を自らの手で砕いたのだ。つた。

とは言え、生半可な力ではどうこう出来ない強力な結晶であるため全てが砕かれたわけではなく、大半は無事に封印する事が出来た。しかし、砕け散った一部の結晶……『魔神結晶片』はラビット隊管轄のこの区域に一定数散らばり、適性の有る怪人を強化したり、普通の人間を怪人にしてしまったたりしている。

この由々しき事態を収める為、最近の俺達は出動続き。おかげで魔神片の大半は回収出来て、残りもあと僅かだろうって分析にはなっているけど。



「このあたりの反応は……微妙、ですね。怪人がいたとしてもかなり弱いかな、もしくはエナジーコントロールが巧みな危険度の高い怪人かんですが」

「魔神片による強化や怪人化ではいきなりそこまでの技術は身につかないだろうし、今は考えなくていいだろう。ふふ、キミの探査術にはいつも世話になっているね。連日出動で疲れているだろうが、もう少し頑張ってくれよ」

「は、はい！ いえ、でも、アヤメさんの方が大変ですし、恐縮です！」

「全く、キミはいつも大げさだな。だけど言っているだろう、勤務中はアイリス隊長と呼ばせ、と。配属されて間もないキミがまだ慣れないのはわかるけど、ね」

「す、すみません、アイリス隊長！」

うう、やってしまったなあ。念願かなってアヤメさん……アイリス隊長のチームに配属されたのは良かったけど、すっかりしないと。

Sラビットアイリスである、卯法院アヤメんさんは陰陽術の名家であり、今回中央を進める『スーツ能力拡張試験部隊』でスーツに陰陽術の力を付与する実験部隊のリーダーとして抜擢されたのだ。

俺は副隊長であるダリアさん……御堂サナエさんと同じく卯法院の分家に当たり、小さいころからアヤメさんのもとで修業し……当時から圧倒的強さと輝きを持つ彼女に俺は、心底憧れていた。ヒーロー適性の高かったサナエさんは俺と違ってあっさりとかアヤメさんと同時に隊員になったが、俺はそこまでの実力が無かったから、必死に努力し今年になってようやくの配属になったという経緯だったりする。

それだけ俺にとってアヤメさんは特別で……これは、恋心なのだろうか？

正直俺自身、自分程度じゃアヤメさんとは釣り合わないと思ってはいるけど、でも、この人となるとドキドキして、この人の為なら何でもやってあげたいと

思ってしまうのだ。もの凄く美人だし、凛々しくて、これも正直に言うとなスタイルも抜群すぎて、どうしても見とれてしまう事が多々あるのも事実。（近くにいとやたらいい匂いもするし）

でも、俺にとって彼女はそれだけじゃない。やっぱり憧れが一番強く、最高のスーパーヒロインというのが俺にとっての『銀鬼神装アイリス』なんだと思う。

と、そんな事を考えながら公園の探査をしていると、一人……いや、二人の人影が現れた。片方はこちらも良く知っている、ラビット隊メンバーのSラビットデージーさん、海外からの派遣であるエレン・ハウジョウさんだ。

そしてもう一人、割と長身なデージーさんよりも一回りどころか二回り以上小さい姿の少年が、彼女の太ももとお尻にしがみ付いていた。



シルバーラビット・アイリス
・陰陽師名家出身のエリートヒロイン。
式神『束神』を身に宿し戦う。
神速の剣技が一番の武器。
長身過ぎて肺がられやすいのが悩み。

「隊長、無事怪人は倒せたんですね！よかったあ！こっちは少年を一人保護しました。僅かにヴィーストエナジー反応も出ているので、魔神片の力に当てられて、引き寄せられちゃったんじゃないかって」

「ご苦労、デイジー。ならば早急にラビットベースに戻り、検査しなければな」

「あ、それなんですけど……」

「うえええええ！ おねえちゃん、ボク怖かったよお」

「うんうん、よしよし、大丈夫だよ、ボクくん♥」

「って感じで、戦闘を間近で見たのか大分怯えちゃってて、私から離れられないみたいなんですよお」
「両親のもとに返すのも、今は怖いからお姉ちゃんの側が良いって言って聞かないですし……そんな強い反応じゃないし、もう遅いですから今日の所はラビットベースの私の部屋で預かって、明日の朝に検査すればいいんじゃないかって思うんですけどお……」

「ふうむ……いたいけな少年に無理強いをして、トラウマを残したくはない、か……」

デイジーさんの言い分もわかるけど、何か興奮気味で過剰に少年に対してデレデレしている感があるのが、妙に勘ぐってしまうモノがあるんだよねあ。

デイジーさんはショタコ……小さめのオトコノコが好きだったのは、いつも

巻き込まれた少年をいち早く保護し可愛がっている所から、皆察している周知の事実だ。

（とは言え、流石にデイジーさんも職務を超えて少年に変な事するようじゃない人ですから、大丈夫なのでは？）

（ふむ、キミもそう思うか。ならば……）

「わかった、今日の所はデイジー、貴女に少年の保護を任せるわ。親御さんに連

絡は……」

「あ、もう取ってる大丈夫です♪ 良かったね、ボクくん♥ アイリス隊長の許可も出たし、今夜はお姉さんのおうちに泊まっていこうね」

「わあ♪ ありがとう、デイジーお姉ちゃん！ ふへへへへ」

（ん？）

一瞬だけだが、デイジーさんに縋りつく少年の顔が、とてつもなくいやらしい笑みに歪んだような気がした。

でもそれは一瞬で、この自然公園内は暗いので多分、俺の見間違いだろう。

「うむ、探索もこのあたりで十分だろう。皆、ご苦労だった！ 明日は朝一番に少年の検査だ。デイジー、余り少年を夜更かしさせるなよ」

「はあ〜い♥」

そうして俺も直ぐ撤収に入り、一瞬の疑念は直ぐに忘れてしまっていた。

そのせいであんな事になってしまふなんて、この時には微塵も思い至らぬまま……

翌日の検査で少年から魔神片は検出されず、しかし先の怪人の暴走で溢れたヴィーストエナジーを大量に浴びていたらしく、エナジーが体内に籠ってしまっている事が発覚した。

今の所悪い影響は出ておらず怪人化の気配はないので、少年の身体への影響を鑑み一気に浄化するのではなく、時間をかけて徐々に浄化して行く事が決定。本人と両親からのお願ひに加え、観察保護は必要との観点から、少年は一時ラビット用基地『ラビットベース』預かりとなった。



そうなるから数日、彼が俺達の基地に居るのが日常風景になったのだが……

「はい、エレンお姉ちゃんの負け♪ 約束通り罰ゲームは、オッパイもみみだあ〜!」

「ああん、ボクくんってホント、ゲーム上手いんだね〜♥ ほら、イイよ♥ お姉ちゃんのオッパイ、好きなだけモミモミしちゃって♥」

「やったあ〜! それじゃあ遠慮なく……そおくれ!」

「あああ〜んっ♥♥」

ベース内で暇な少年をエレンさんがかまってあげて、でれっでれに甘やかすのは最初からそうだったけど、最近はエスカレートしすぎな気もする。

と言うかオッパイまで揉ませるなんて、うらやま……いやいや、じゃなくて、やり過ぎじゃないかと思う。なんかエレンさん顔真つ赤で息も荒いし、こっちも変な気分になって来るし。

そして最近より気になるのは、それだけではなく……

「ほおらボクくん、ジュースとお菓子買って来てあげたよお〜♥ それとお、サナエお姉さんもゲームに参加してあげよっか♥」

「お、サンキュー、サナエお姉ちゃん♪ へへ、参加もオッケーだけどお、お姉ちゃんもボクに負けて、オッパイ揉まれたいのかなあ〜♪」

「やあん、もう、ボクくんったらあ♥ そ、そんな訳、ないじゃない♥」

最初はベースでエレンさんにセクハラまがいの甘え方をする彼を怒っていたサナエさんまでも、今はエレンさんに負けない程アイツを甘やかしているのだ。何か……何か、おかしい気がする。

隊長……アヤメさんは根が本当に優しく、最初から彼にも柔らかに接してい

たからわからないが、エレンさんたちに対する態度も『家族に会えなくて寂しいのでしょうから、このぐらい甘えさせてあげてもいいじゃない』と黙認してしまっているのだ。

優しくも風紀には厳しかったアヤメさんにしては、これもやっばり……

「と、そうだ。悩んでないで、アヤメさんに報告に行かないと……」

とりあえず報告が終わったら、改めて彼について調べてみた方がいいかもしれない。

そう思い、俺は隊長室へと向かった。

もし、もっと前から彼について調べていれば。いや、せめて、この報告の時にもっと注意していれば。

俺はそれを永遠に、後悔する事になってしまうのだった……



Sラビット・テージー&タリア

・テージー海外から派遣された日系人でマイペースなパワー型。
タリアは副隊長で真面目、器用な万能サポート型。
二人とも隊長であるアイリスを慕っている。

……以上が
ここ数日で頻発している
怪人事件の全容です

こちらが現在までに
判明している怪人出現地域と、
今後予測しうる
発生ポイントのリストです

そして、これら
事件の中心には……

この『魔神片』が
絡んでいる……
という訳か

この短期間で
よく分析してくれた

君たちサポートチームの
支援があればこそ、私たち
シルバービッツ隊は
十全に戦えるのだ

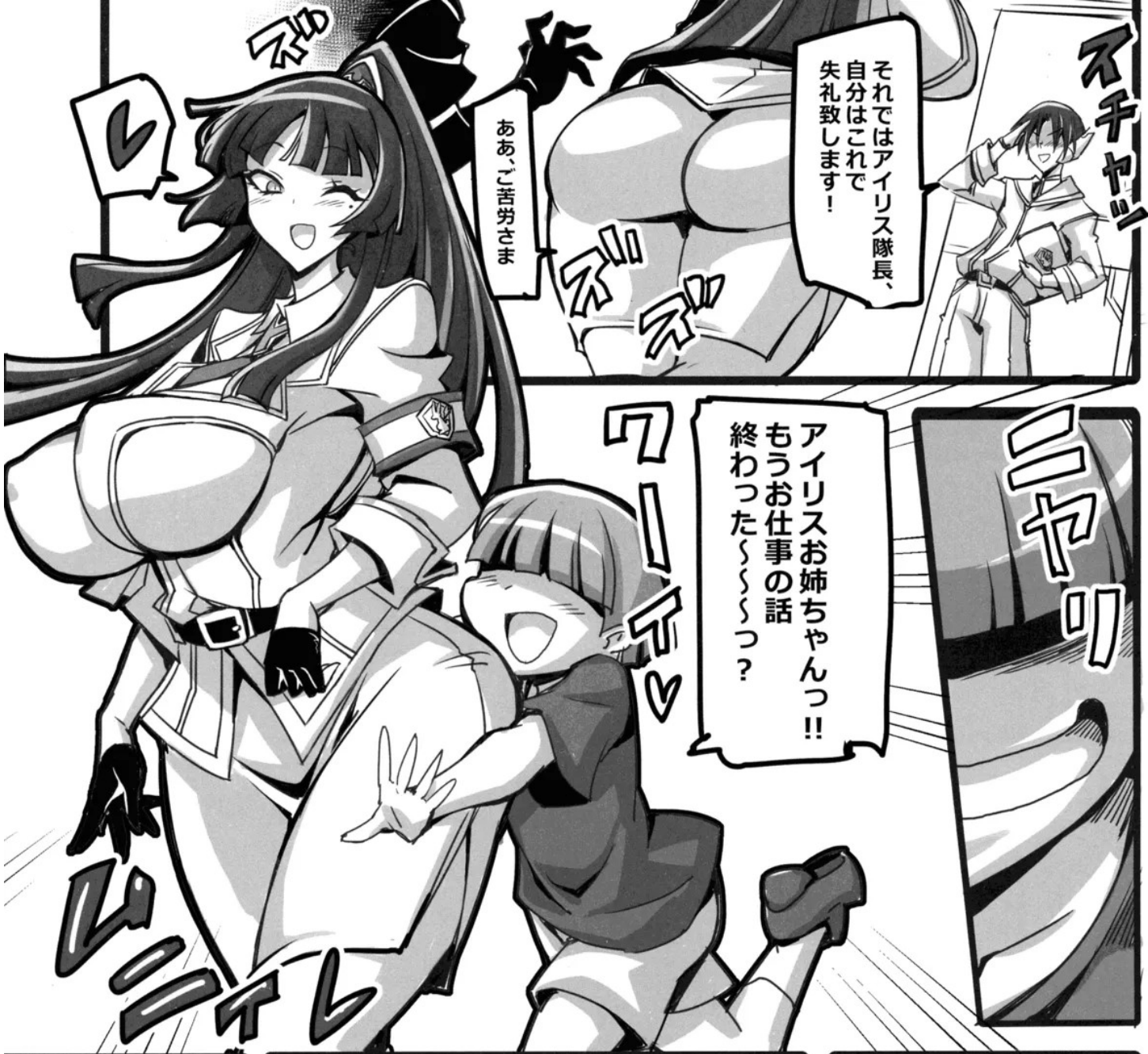
感謝する

いいえ
アヤメさんの為なら
このくらいのこと……

それと
基地内ではちゃんと
『アイリス隊長』と
呼びなさい

まったく……
がんばり過ぎるのは
キミの子供の頃からの
悪いクセだぞ

あ、アヤメさん……
好きだッ!!



それではアイリス隊長、
自分はこれで
失礼致します！

ああ、ご苦労さま

アイリスお姉ちゃんっ!!
もうお仕事の話
終わった〜っ?



お、おい!
ここは『隊長室』なんだ、
子供の遊び場じゃあ
ないんだぞっ!!

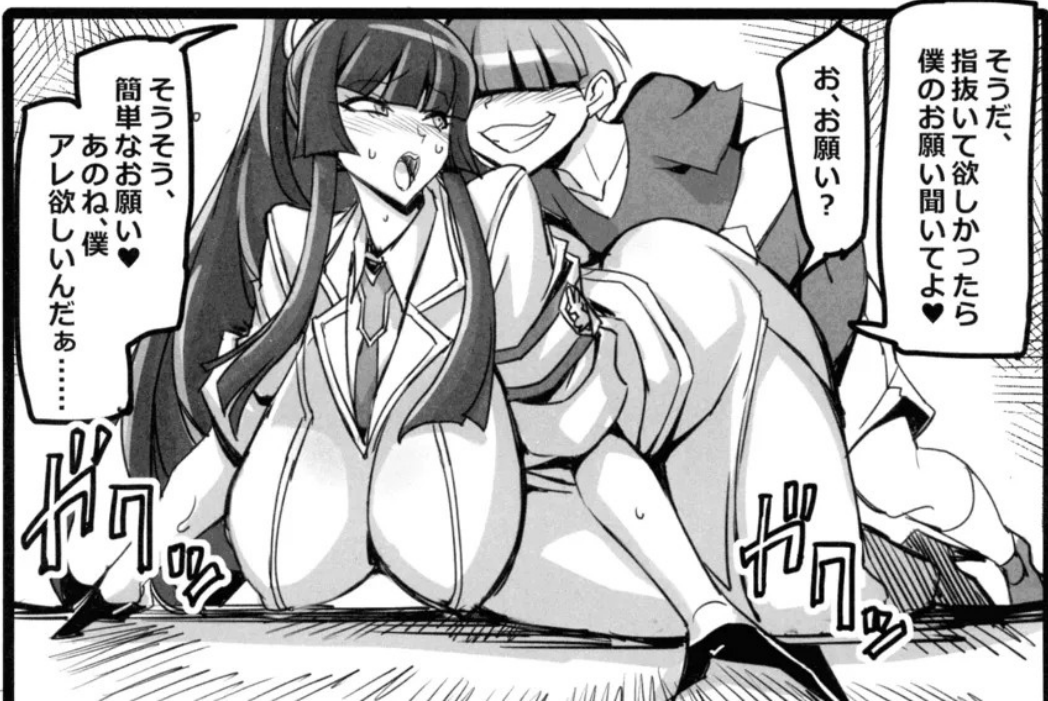
まあまあ、
この少年には申し訳ないが
ヴィーストエナジーによる
汚染が浄化されるまで
家に帰す訳にはいかない
からな

こちらの都合で
もう何日もここで
待ってもらっているんだ

大目に見て
やってくれ

お姉ちゃん、ボク
『お菓子食べた〜い♡』







神装転身



スラッシュ



式神融合



ひひひ、
どう凄いでしょ？

僕のこの怪人チンポで
お姉ちゃんのおまんこに
ブビュブビュ膣出し
しちゃったら……

僕のヴィーエスト因子が
お姉ちゃんの子宮に刻印されちゃって
絶対に逆らえなくなっちゃうんだよ
だから、ね♡
僕とセックスしよ♡

おまんこに膣出ししまくって、
身も心もグズグズのアヘアヘに
なっちゃって……

お姉ちゃんの事いっぱい
気持ちよくしてあげる
から……ね♡♡♡



——って、違うッ!!
私は何をしてるんだッ!?

この少年は怪人で
私は悪と戦うSラビッツ隊
隊長で……ッ!!

しょうがないなら、
なら特別に膣出しは
許してあげるよ

こんなこともあろうかと
ボク、コンドーム
いっぱい持ってるんだ♡

……!!?
ん？アレ??

そ、そうか
ゴムを付ける
なら安心だな

膣出しさえされなければ
いくらセックスしても
問題ない訳なんだし……

そうそう♡
アイリスお姉ちゃんだけの
特別待遇なんだから
感謝してよね♡♡

あ、ああ……
感謝するぞ少年





それじゃあ、まずは…
『ボクのチンポにゴム着けて
もらおっかな♡
ちゃんとお口でご奉仕して
もらうからね♡♡』

ここで諸君に
語らねばなるまいッ
魔神片により強化された
このクソカキ怪人の
恐るべき『怪人能力』の
秘密をッ!!

ッ

ッ



それは
『おねだり』ッ!!

『おねだり』を相手に
受け入れさせることで、
徐々に精神を支配していく
恐るべき洗脳特化能力ッ!!

最初は他愛ない『おねだり』
から始まるが、やがてそれは
天井知らずにエスカレートオッ!!





あ、あの…
せめて優しく
してくれ……

りようか〜い♡
やさしく
やさしく……

『おねだり』は拒否されても
執拗に繰り返すことで、
対象者は精神的抵抗力を
知らぬ間に削られてしまう!!



こ、こんなの…
太過ぎるううッ!!

『おねだり』成功回数に応じて
洗脳深度は飛躍的に上昇ッ!!
そしてこの能力の真価は
ここからッ

ここから
なのだッ!!



……
ねッ!!



うおおおおおッ!!
これがSラビット・アイリスの
おまんこオッ!!

き、ききき
気持ち良すぎる
ううううッ!!

この長身ドスケベボディに
ボクの怪人チンポが
ジャストフィットだよオ♡



これは
ボクのだ!!

絶対にボクのモノに
してみせるぞオッ!!



このチカラを
手に入れてから、
何人もヒロインを
犯してみただよオ

これがブッチギリで
最高のおまんこだア!!





でもまだまだ足りない…
本番はこれからだよ
アイリスお姉ちゃん♡

ふうふう、見て見て♡
こんなに精子出たの
生まれて初めてだよ♡



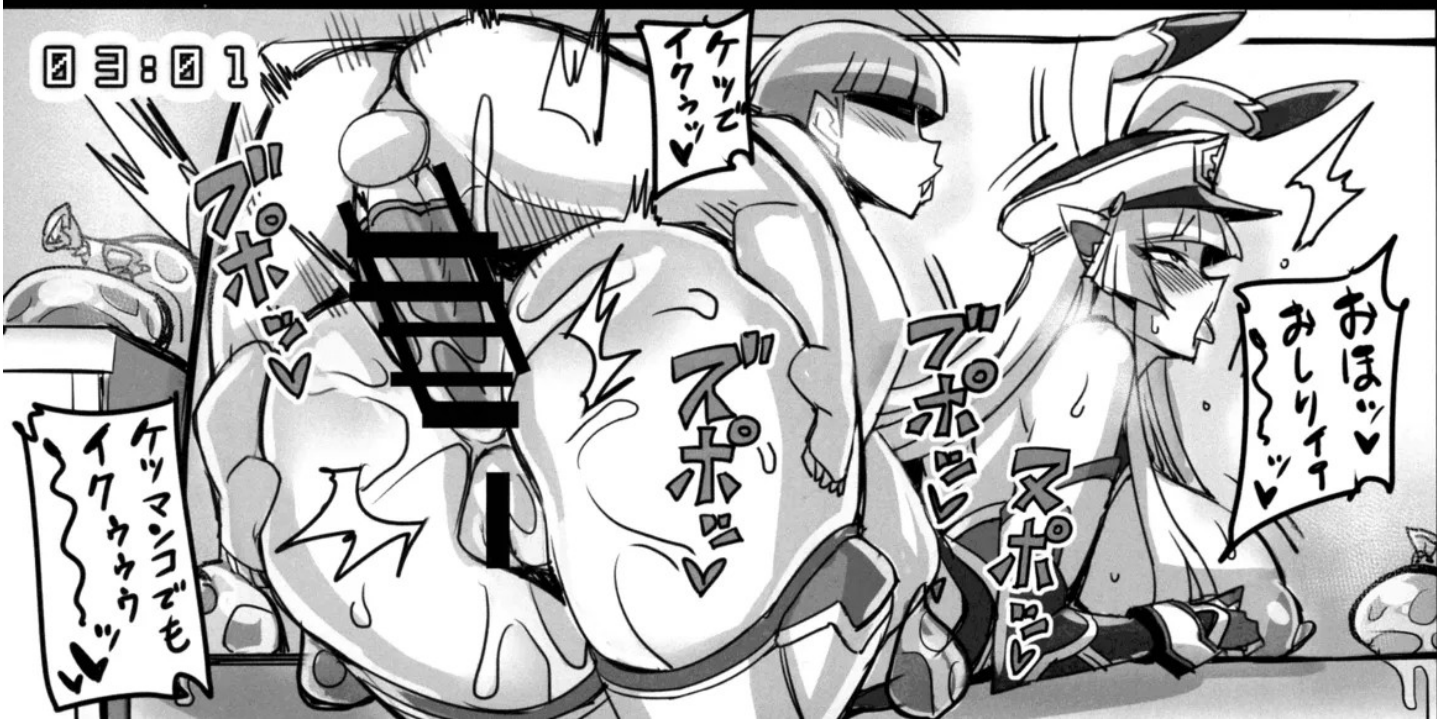
20:09



23:42



03:01



ふう、出した出した♡
遂にコンドーム全部
使い切っちゃったよ

これじゃあ
もうセックス
出来ないね

でも、ざんねんだなア
もしアイリスお姉ちゃんから
『おねだり』してくれる
なら……

腫出しセックスで
もおつと気持ちよく
してあげられるのになあア



お姉ちゃんは…
いや、シルバーラビッツ隊長
シルバーラビッツ・アイリスは
もうボクのモノだよッ♡



…という訳で
すまないが私はもう
彼専用のメス兎
なんだ♡

もしキミがご主人様の
邪魔をする気なら……
覚悟してもらおうよ♡♡



そ、そんな…
あの気高いアヤメさんが
たった1晩でこんなに
変えられてしまうなんて…ッ



Happy Slave End♡

シナリオ：真田クロ
イラスト：鳥三、波多

聖霊騎装

バニキュール・フレイア

BUNKYRIE FREIA

ー、救世の戦乙女になります!

今作は『とりのおいしいところ』と『Crooked Navel』共同制作のノベルゲーム
『聖宝晶華セイントライム～VeasTubeエロエロ配信Edition～』登場の
僕が原画担当したサブヒロインであるアイリスさんスピンオフ外伝となっております。
そして新作CG集『聖霊騎装バニキュール・フレイア』にもアイリスさん登場していますし、
SDキャラ絵、一部イベントCGの原画等で今回もがっつり参加しちゃってます!
近日中発売予定! 是非是非DLsiteとFANZAをチェックだあ!

奥付

発行日:2024年12月30日
サークル名:トランジスタベイビー
著者:波多(Xアカウント:torabe555)
(<https://www.pixiv.net/users/1024628>)

印刷:サンライズパブリケーション様
共同制作:真田クロ(Crooked Navel)
表紙彩色:エチゴヤ様

18歳未満の購入閲覧、
無断転載を禁止します

←アイリス&ノルのWパイズリを担当しました!
どんな内容かは是非本編でお楽しみください!

